

# 解答・解説

## 凡例および注意点

① = 大問番号    ❶ = 段落番号    ❶ = 文番号

### 解答部

\_\_\_\_\_ = 正解部分  
( ) = 省略可能  
[ ] = 直前の語句との入れ換え可能

### 解説部

㊦ = 主語    ㊧ = 動詞    ㊨ = 目的語    ㊩ = 副詞 など  
「 」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調  
( ) = 省略可能、あるいは補足・別表現  
【語句】 = 該当箇所の重要語句  
[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント  
⇒ = 派生語・反意語 など  
☐ = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする  
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

### 日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

### 重要語句確認部

㊦ = 名詞    ㊧ = 動詞    ㊨ = 形容詞    ㊩ = 副詞 など  
□ = チェック欄  
[ ] = 発音記号  
「 」 = 意味

解答

I

- 問1 楽しさは人々の行動をよりよい方向に変えることができるという理論に基づく発想。(38字)
- 問2 階段のそれぞれの段を、踏んだ圧力に反応して大きな音を出すピアノの鍵にした。(37字)
- 問3
  - ・ゴミを捨てるたびに、落下して、はるか下で碎ける反響がする仕掛けをしたゴミ箱。(38字)
  - ・ゴミ箱を正しく使った人を、光の点滅と大きな赤いディスプレイの得点で称えるゴミ箱。(40字) ※順不同
- 問4 DDBのキャンペーン中、ストックホルムでは、エスカレーターではなく階段を使うようになった通勤通学者がより健康になり、より多くの人々が公園のゴミ箱を正しく使うことでリサイクルが促進されたということ。(98字)

解説

凡例： ❶=段落番号、❷=文番号

- 問1 本文内容の一部を具体的に説明する記述問題。問題文の条件を正しく満たしたうえで、自然な日本語で、丁寧な字で解答する。不自然な日本語、乱暴な字では採点すらしてもらえない可能性がある。採点官に対する思いやりを忘れてはならない。なお、字数制限がある場合、1割以内の誤差で解答することが望ましいとされる。この場合、「40字以内」とあるので、36～40字以内での解答を心がける(字数が多少足りないのは許されても、40字を1字でも超えるのは許されない)。
 

下線部(a) The Fun Theory は直訳すると「楽しみ理論」。この名称のもととなる発想が直後の引用符内に端的に示されていることは、引用符内が、続く one executive explained「1人の(DDBの)幹部が説明した」の目的語であることからわかる。よって、引用符内を条件に合うように訳して説明すればよい。助動詞 can は「～できる」(可能)でも「～しうる」(可能性)でも、どちらで解釈してもよい。副詞句 for the better は、定冠詞 the があるので続く better は「よりよいもの」の意味の名詞で、前置詞 for の目的語。for the better [worse]「よりよい[悪い]方向へ」の意味のイディオムとして覚えてよい。
- 問2 本文内容の一部を具体的に説明する記述問題。
 

下線部(b) The first experiment「最初の実験」についての具体的な仕掛けについて説明する。❷❸～❹ a team of workers converted the staircase into an electronic piano. Each stair became a piano key that played a loud tone in response to pressure.「ある作業チームが階段を電子ピアノに改造した。それぞれの段は、圧力に反応して大きな音を出すピアノの鍵になった。」の部分に示されているので、字数以内でまとめて説明する。下線部の後ろの

- ❷～❹は、実験前の状況を背景として説明するもので、実験そのものではない。
- 問3 本文内容の一部を具体的に説明する記述問題。
 

下線部(c) other experiments「他の実験」における2種類のゴミ箱の特徴は、❸の❷と❹～❺に、それぞれ示されている。まず1つは、引用符内で端的に述べ、続くダッシュ以降で説明を加える形の、the “deepest bin in the world” — a trash can ❶rigged to emit [an echo ❷]implying that each piece of garbage plummeted ❸before crashing far below」[「世界でもっとも深いゴミ箱」、つまりそれぞれのゴミが落ちてはるか下で碎ける反響がするように仕掛けられたゴミ箱]の部分。過去分詞 rigged 以降はすべて、名詞 a trash can を後置修飾している。to emit は to 不定詞の副詞的用法「～するために」。現在分詞 implying 以降は名詞 an echo の後置修飾。前置詞 before 以降は時を表す副詞句。もう1つは、DDB turned one bin into an arcade game.「DDBはあるゴミ箱をアーケードゲームに変えた。」 The game rewarded ❹[people ❺]who used the bin correctly」❻[with flashing lights and {points ❷}that were recorded ❸]on a large, red display]].「そのゲームは、ゴミ箱を正しく使った人に、光の点滅と大きな赤いディスプレイに記録された得点で報酬を与えるものだった。」の部分。構造を単純化すると、reward O with ～「Oに～の報酬を与える」である。これらの内容を、それぞれ「ゴミ箱の特徴」として説明する。
- 問4 本文内容の一部を具体的に説明する記述問題。
 

下線部(d)、For a brief time, the people of Stockholm were slightly greener and healthier.「短い

時間、ストックホルムの人々は、わずかにより環境にやさしく、より健康だった。」の内容は、直前の the campaign also changed how people behaved.「そのキャンペーンはまた、人々がどのように行動したかを変えた。」を言い換えたもの。つまり、下線部の内容を、そのキャンペーンの具体的な活動内容とその成果として言い換えれば解答になる。まず、For a brief time は「そのキャンペーンが行われていた間」を表すと推測できる。greener「より環境にやさしい」はゴミ箱の実験が、healthier「より健康な」は電子ピアノ階段の実験が、それぞれあてはまる。どちらも比較級で表現されているので、キャンペーン前と後の違いがわかるように説明するとよいだろう。なお、副詞 slightly「わずかに」は、実験が期間限定で、また全市民を巻き込んだものでもないことから、控えめな表現にするために加えられたものと

考えられる。字数と相談して取捨すればよいだろう。

日本語訳

2009年の終わりごろ、スウェーデンの広告代理店 DDB ストックホルムは、フォルクスワーゲンのオンラインキャンペーンを開始した。フォルクスワーゲンは、運転をより楽しくするために設計された、新たな環境にやさしい車を発売しようとしていたので、DDBはそのキャンペーンをファン(楽しみ)・セオリーと名付けた。1人の幹部が説明するには、「楽しみは、よりよい方向に人々の行動を変えることができる」ので、ひょっとすると一服の楽しみによって、その新しい車を試乗したいと思う人がいるかもしれないとのことだった。話題作りのために、DDBはストックホルム周辺で巧みな実験を始めた。それぞれの実験は、ふつうはありふれた行動を、ゲームに変えてしまったのである。

最初の実験は、ストックホルム中央のウーデンブラン地下鉄駅で行われた。通勤通学者には、駅を出るときに2つの選択肢があった。24階段の斜面を歩いて昇るか、狭いエスカレーターに乗って動かず立っているかである。監視カメラの映像によると、通勤通学者はそもそも怠惰で、空いている階段を使わず、混雑したエスカレーターに重なるように乗っていた。問題は、DDBが説明したのだが、階段には楽しみがないということだ。それで、ある晩遅く、ある作業チームが階段を電子ピアノに改造した。それぞれの段は、圧力に反応して大きな音を出すピアノの鍵になった。朝、通勤通学者がいつものようにウーデンブラン駅の出口に近づいた。最初はほとんどがエスカレーターを利用したが、数人がたまたま階段を利用し、駅を出るときに意図せず簡単なメロディを作曲した。他の通勤通学者が気づき、すぐにその階段はエスカレーターよりも人気になった。映像によると、「通常より66%多くの人々が、エスカレーターよりも階段を選んだ。」ありふれた経験がゲームに代わるとき、人々は群がるのである。

DDBは、そのキャンペーンが盛り上がるにつれて、他の実験を開始した。ある人気の公園で、電子工学の専門家が「世界でもっとも深いゴミ箱」、つまりそれぞれのゴミがはるか下に落ちて碎ける反響がするよう仕掛けられたゴミ箱を作り出したのだ。その公園の他のゴミ箱は毎日80ポンドのゴミを集めた。そしてそのもっとも深いゴミ箱は2倍多くのゴミを集めた。他の場所では、人々は街じゅうでリサイクル容器を間違った使い方をしていたので、DDBはあるゴミ箱をアーケードゲームに変えた。そのゲームは、ゴミ箱を正しく使った人に、光の点滅と大きな赤い表示に記録された得点で報酬を与えるものだった。毎日、平均でわずか2人がもっとも近いゴミ箱を正しく利用し、そして毎日100人以上がアーケードゲームゴミ箱を正しく利用した。

キャンペーンは大成功だった。その映像は合計3千万を超えるユーチューブのアクセスと、多くのオンラインのうわさを集めた。2010年、DDBは世界最大の広告祭でサイバー賞のライオン点、つまり「世界でもっとも有名な口コミキャンペーン」に与えられる途方もない榮譽を勝ち取った。業界での喝采に収まらず、そのキャンペーンはまた人々の行動をも変えた。短い時間、ストックホルムの人々は、わずかにより環境にやさしく、より健康だったのである。